

北緯40度●彫刻とホッケーのまち

広報いわてまち

発行/岩手町 〒028-4395 岩手県岩手町五日市10-44
TEL 0195-62-2111 FAX 0195-62-3104
編集/企画商工課 Home Page <http://www.town.iwate.iwate.jp>

2005年12月1日
12
NO.558

手を携えとも歩んだ夫婦の歴史も
振り返ってみればもう半世紀
これからも二人一緒に
健康で仲良く過ごしましょうね

特集◎信頼と情熱で築いた検診の軌跡

「あきらめない」

写真 = 細野喜三郎さん・サクラさん夫妻（岩瀬張）

良かった、本当に良かった。 検診に支えられた私の15年

岩瀬張の細野喜三郎さん(72)・サクラさん(70)は、仲良し夫婦。昭和二十九年に結婚以来、農業などで生計を立てながら、四人の子どもたちの成長を楽しみに、手を携えて歩んできました。その子どもたちも結婚し、孫たちも生まれ、家中が幸せに満ちあふれていた平成二年、サクラさんはその年始まったばかりの町の大腸検診を受けました。結果は「陽性」。不安な気持ちを

抱えながら精密検査を受け、手術が必要だと告げられました。「何の症状もなかったのに」。驚きのあまり、家族にも話せず、不安な日々を過ごしました。しかし、「早く良くなつて、小さい孫たちの成長を見たい」。家族とともに、再び平穏で幸せな暮らしに戻りたいという思いが、手術を決意させました。手術は成功。喜三郎さんや子どもたち、孫たちの優しい愛情に包まれ回復。家族の笑顔に囲まれた幸せな暮らしが、また戻ってきました。

あれから十五年。田畑の秋じまいを終えたサクラさんは、工事作業の手伝いに出るなど忙しい日々を過ごしています。喜三郎さんとの結婚生活も、もう半世紀。昨年、金婚式を迎えた喜びを家族とともに分かち合いました。「あの時、検診を受けていなかったら...」。当時を思い出すたび良かった。本当に、良かった」という思いが二人の胸にじんわりとわいてきます。「これからも二人、健康で仲良く過ごしていきたいましょね」。サクラさんの言葉に、喜三郎さんもそっとほほ笑みうなずいていました。

岩手町では、検診事業に力を入れています。財政がひっ迫し県内市町村の多くが検診の有料化に踏み切る中、岩手町は無料化を堅持。健康でいることの安心と幸せを、感じられる町づくりを進めています。

検診受診率は全国トップレベルの高さを誇ります。特に大腸検診は、受診率の高さとともに「岩手町方式」という独自の推進体制の確立に、医学会からも高い評価を受けています。

今月は、町民の健康と安心を支える「検診」について、考えてみましょう。

特集 信頼と情熱で築いた検診の軌跡

「あきらめない」

大腸がん検診

近年増加傾向の大腸がんは、このまま推移するとがんによる死因のトップになるのではないかと危惧されています。そんな中、岩手町の大腸検診は、全国にも例を見ない受診率と発見率の高さを誇ります。大腸がん検診の「今」に迫ります。



ファイバースコープによる内視鏡検査で発見された大腸内のポリープ(写真提供:岩手県立沼宮内病院)

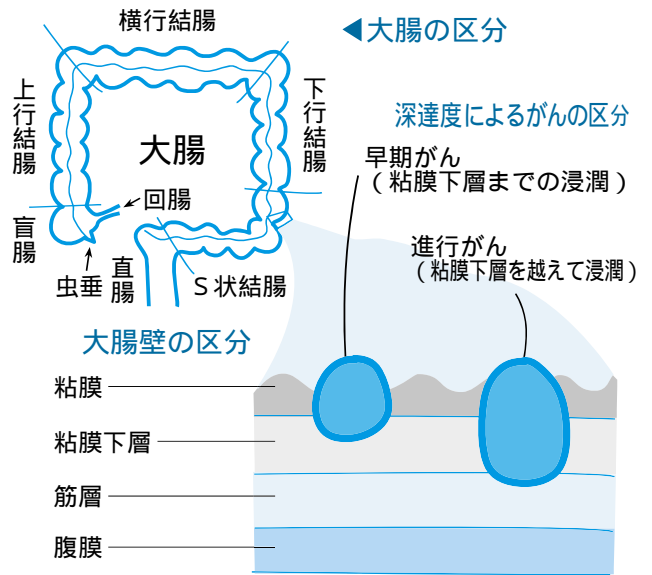
えっ!?盲腸も大腸なの 増える日本の大腸がん

大腸は、直腸、結腸S状、下行、横行、上行)と盲腸を総称し大腸といえます。そして、この大腸の部位にできた上皮性悪性腫瘍を大腸がんといいます。

大腸がんはこれまで、日本人には少ない病気といわれてきました。しかし、ここ数十年の大腸ポリープ・がんの発見者数は増加傾向。二〇一〇年ごろには、大腸がんが悪性腫瘍による死因のトップになるのではないかとされています。

大腸がんが増えてきた要因として考えられるのは、食事の西洋化です。

大腸の区分

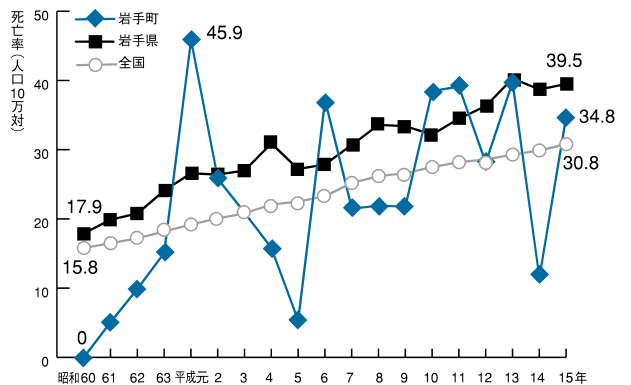


和食中心の食事から、高脂肪、高タンパク質の洋食に変化。本来欧米人に多かった大腸がんが、日本人にも多く発生するようになりました。大腸がん発生の経路は、大きく分けて二通り考えられています。一つは、ポリープができ、一部ががん化して早期がんとなり、やがて進行がんになるタイプ。もう一つは、正常粘膜からすぐに早期がん、進行がんとなる経路です。

特に、前者の発生経路が多いと考えられ、ポリープの段階で処置できれば、がんを予防できる可能性が非常に高くなります。

大腸がんの場合、がんやポリープは粘膜から発生します。がんが粘膜

大腸がんの死亡率の推移



層に留まっているものを早期がんと呼び、ファイバースコープで切除できます。しかし、粘膜下層まで浸潤していると、リンパ節への転移が疑われます。この場合、病巣だけでなく周辺のリンパ節も切除するため、手術が必要になります。また、粘膜下層より深く浸潤しているものは進行がんと呼ばれ、リンパ節への転移の可能性が高くなり、最初から手術が必要になります。粘膜下層までの浸潤であれば、生存率は90%以上。この段階で命を落とす可能性は極めて低くなります。また、筋層まで進んでいた場合でも、腹膜まで達していなければ生存率は80%以上になっています。



内視鏡検査を行う宮本勇二医師 = 右端。大腸内を注視しカメラを進めます

進化した試薬と内視鏡 負担が軽く精度も向上

大腸検診の一次検査は、便に血が混じっているかどうかを調べる便潜血反応で行います。人のヘモグロビン（血色素）にだけ特異的に反応する試薬を使うことで、主に大腸からの出血だけを感じできます。

二次（精密）検査の方法は施設により異なりますが、町の大腸がん二次検査を行う県立沼宮内病院では、

ファイバースコープを使った内視鏡検査を行います。直腸とS状結腸に病変発生の確率が高いため、特に有効と考えられています。カメラで映し出されたポリープの形態、色調などを肉眼で診断。さらに、病変の一部を取り顕微鏡で検査し、良性、悪性（早期がん、進行がん）の状態も診断します。

しかし、腹部の手術経験がある人や腸管の長い人などは、奥の盲腸までカメラを入れ診断するのが難しいため、エックス線撮影を併用し検査が行われています。エックス線撮影は、病変が体のどこの場所に発生しているか確実に分かる一方、腸管内に便が残っていた場合、それが便かポリープか、それともがんなのか判定が難しいこともあります。また、S状結腸などは腸管同士の重なりが多く、大きな進行がんさえも見落とす危険性があります。

大腸がんは予防できる 継続と早期発見が大切

「大腸がんは、早期の発見と治療で予防できるがんの一つ。ポリープ段階で切除すれば、ほとんどの大腸がんを防ぐことができると考えています」。沼宮内病院で内科長を務める宮本勇二医師（50）の言葉には、自信があふれています。



内視鏡検査で使われるファイバースコープ。検査機器の進歩で精度は向上し、患者の負担も軽くなりました

特集 信頼と情熱で築いた検診の軌跡

「あきらめなし」

三者連携で健康支える 「岩手町方式」のすゝめ

岩手町の大腸検診の受診率やポリープ・がんの発見率は、県や全国の平均を大きく上回る極めて高い数値を誇っています。その評価も高く、七月に盛岡市で開かれた日本消化器集団検診学会東北地方会での成果を発表するなど、特に医学会から大きく賞讃されています。

宮本医師は「役場と医療機関が検診の進め方を話し合い、役場と保健推進員が住民の受診を強力に勧奨。そして、医療機関は検査結果を役場に報告。この繰り返しと三者の連携ができているからこそ岩手町の検診はうまくいっているんだと思います」と分析します。この独自の検診体制こそが「岩手町方式」であり、これにより住民の健康をしっかりと見守ることができるのです。

最下位からの脱却

昭和五十年代半ば、岩手町の検診受診率は県内で最低に近い状態でした。胃、循環器、婦人科、乳がんの検診は県内最下位、胸部検診も下から三番目。県内ワースト3の汚名を返すべく目指した「受診率最下位からの脱却」。町の検診事業への取り組みが動き始めました。

受診率の向上を目標に 推進員と保健師が一体

岩手国体以後の健康体力づくり運動の功績が認められ、第十八回体力づくり運動推進全国大会で内閣総理大臣賞を受賞(昭和五十一年)した岩

手町にとって、「検診受診率県内最下位」は汚名そのものでした。受診率は、健康づくりを客観的に計ることができ、物差し」。町の保健活動を担当する保健師と保健推進員は、健康づくりの確かな目標として受診率向上を掲げました。

そもそも受診率の低さはどこに要因があるのか。まず検診の実施方法を再検討しました。検診で重要なのは、対象者の把握。そこで、保健推進員が各世帯を回り、受診予定調査を行いました。聞き取り調査した内容を保健師がデータ処理し、検診漏れがないように努めました。

受診予定調査や通知書を配布する保健推進員は、住民に直接受診を呼び掛けました。検診への関心が低かった当時、住民の反応は冷ややかでした。前保健推進員協議会長の乙茂内信子さんは「しつこい」。病気になるたら病院に行くから検診には行かない」と訪問先で怒られ、煙たがられ、悔しい思いをしたこともあり

ました」と活動の苦勞を語ります。また、検診を受けるのを住民が忘れないよう、前日の夜に保健師が広報車で呼び掛け。民家の明かりだけを頼りに地域をくまなく車で走りまわりました。広報車が通ると「うるさい」と怒鳴られることもありました。その一方で、地域の保健推進員がわざわざ家の外に出て「保健婦さん、ご苦勞さま」と、掛けるねざらいの一言に大きく励まされました。

昭和五十八年には各種検診の申し込みを全世帯に配布し、循環器検診の日数と会場を増やしました。また、検診料金を無料にするなど、受診環境はさらに改善され、循環器検診では受診率が前年の二倍近い25・7%に急上昇しました。

その後も、検診モデル地区や受診率の低い地区での「草の根保健事業」を行うなど、地道な取り組みを続け、受診率の底上げを進めました。



町保健推進員協議会・前会長
おともないのぶこ
乙茂内信子さん(74) = 犬袋 =
一緒にやりましょう

「一緒にやりましょう」。保健師の言葉に何度励まされたことでしょうか。保健推進員を始めたころは、検診を勧めても投げやりな断られるなど苦勞も多かったです。でも、そんな時に支えになったのがこの言葉。推進員の活動が定着してからは、住民の「ご苦勞さんです」の言葉が、私たちの励みになりました。経験と信頼の積み重ねが、推進員の財産です。



町検診推進委員会委員長
さかい ひろき
坂井 博毅医師(69)
 (医療法人博理会 坂井医院院長)

全国に誇れる活動

検診委員会設立で地域医療の考え方が一つになり、医療、保健、予防の3つがうまく連動。特に消化器の集団検診は、行政と住民、医師が一体となった全国に誇れる活動です。

夜の健康講座では、地域を順番に回り病気や検診に対する住民の不安を解消。この活動が受診率を上げる大きなきっかけになったと思います。



①保健推進員研修会でのグループワーク。活動の悩みや喜びなどを共有することで推進員のつながりを強め地域の健康づくりリーダーとしての意識を高めました(昭和63年2月、五日市生活改善センター) ②町内医師たちが各地区を巡回し開催された「夜の健康講座」。住民の健康意識の高揚と検診受診率の向上に大きな役割を果たしました(平成2年2月、御堂集落センター)



特集 信頼と情熱で築いた検診の軌跡

「あきらめなし」

行政と医療機関が団結 三者連携で強気に推進

昭和六十二年、町保健推進員協議会が設置され、検診活動が一層活発に進められました。受診率は県平均を上回る勢いで推移。しかし、検診で病気を発見したが、すでに進行が。どうすることもできない状態に。町の医師がつぶやきました。進行がんで見つかったても、検診の意味がない。この一言が、町の検診体制に再び大きな変化をもたらしました。行政と医療機関の連携を強化するため、町検診推進委員会が同年設立されました。委員長に坂井医院院長の坂井博毅医師、副委員長に沼宮内病院院長の高橋司医師が就任。佐々木医院院長の佐々木久夫医師や沼宮内病院の佐藤公也内科医師、役場保健課職員で構成されました。

坂井医師は、委員会では、受診率、



町健康福祉課
にしょうじ さいちこ
仁昌寺幸子保健師長(55)

本当のパートナー

電算化による対象者の把握は、検診事業にとってとても画期的でした。また、夜の健康講座は検診に関心を持ってもらおうと、無我夢中で地域を駆け回った思い出深い事業です。地域の中で重責を担う保健推進員の悩みに私たちも共感。医師団とは早期発見の喜びを共有。三者は、喜びもつらさも分かち合った本当の「パートナー」だと思います。

発見数などのデータを基に、検診体制や未受診者対策を議論。評価と反省、計画の繰り返ししが受診率向上につながった」と分析します。

また、町内医師団の協力を得て「夜の健康講座」を各地で開きました。「保健師が企画し、医師団が講師を務め、保健推進員たちが地域に参加を呼び掛け。大雪の日も雪をかき分け、地域住民の待つ集会所へ向かい、がんや婦人科疾患、脳出血などをテーマに講演会を行い、健康への関心を高めました」。町健康福祉課の仁昌寺幸子保健師長は、保健推進員、医師団とともに、懸命に地域を駆け回った時代に思いをはせます。

三者の地道な取り組みは、住民から次第に理解され、信頼されるようになりました。検診に取り組み始めて約十年。時代が昭和から平成に変わるころ、岩手町の検診受診率は、県内トップクラスに向上しました。

岩手町方式

行政、医療機関、地域の協働による検診推進体制は、受診率を徐々に押し上げました。そして、新たに作り組んだ国の大腸検診モデル事業。試行錯誤を繰り返しながら、多くの困難を信頼と情熱で乗り越え確立した独自の検診推進体制「岩手町方式」に迫ります。

国のモデル事業を導入 早期発見を目標に一丸

平成元年、大腸がんで亡くなる人の数が、胃がんで亡くなる人の数を上回るようになりました。国も大腸がんの増加傾向に大きな危機感を抱き、当時の厚生省は大腸検診のモデル地区として全国から十二地区を選ぶことになりました。

そのころ岩手町は、保健推進員協議会や検診推進委員会の設立など、行政、医療機関、地域の連携で検診受診率の上昇に勢いがついていた時期。受診率はすでに県内でもトップクラスにまで向上していました。これまで検診に取り組んできた成果を手に町は、国に採択を願いました。

平成二年、三千余りの自治体の中から岩手町が「大腸がん検診モデル事業」に選ばれ、ここから大腸検診への取り組みが始まりました。

岩手町が大腸検診に取り組むのはまったく初めてで、検診内容や実施方法など分からないことが多く、手探りの状態でした。そこで、検診推進委員会の医師たちから大腸検診の概要について説明を受け、実施方法などを検討し、検診の体系を作成。大腸がんの早期発見、早期治療を目標に一丸となって取り組むことを確認しました。

一次検査の容器の配布と採便方法の説明、検体回収は保健推進員が担当しました。推進員は、正しく検査が行えるよう採便方法を住民に丁寧に指導。また、検体の提出を忘れた住民には、電話をかけて知らせるなど、地域での地道な取り組みを展開しました。

二次の精密検査は、沼宮内病院が一手に担当。沼宮内病院の検査処理能力を考慮し、小単位行政区に分けたスムーズな検査態勢を整え、受診

特集 信頼と情熱で築いた検診の軌跡

「あきらめなれ！」

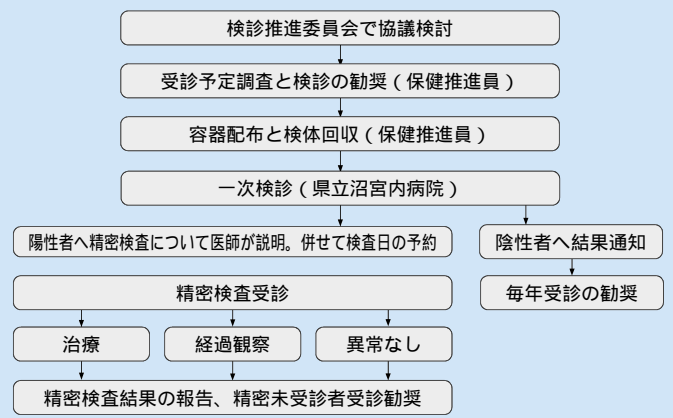


(写真奥右から順に)北海道対がん協会検診センターの有末太郎医師と沼宮内病院の渡辺恒雄医師を講師に招き大腸がんについての講演会を開催。検診による早期発見で大腸がんを予防しようという決意を新たにしました(平成11年5月、町保健センター)



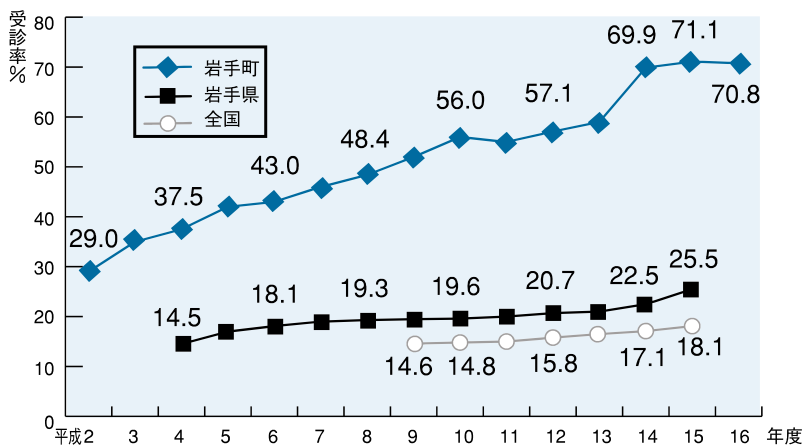
大腸検診二次検査の説明会。検査機器の進歩で患者の負担が軽くなったことや大腸がんは予防できることなどを医師が説明し、その後検査日の予約も行われます

岩手町の大腸検診の流れ



大腸検診の受診率

・岩手県……老人保健事業年報、岩手の老人保健による
 ・全国……厚生労働省、統計調査結果による



町保健推進員協議会長

みうら
三浦ミサオさん(63) = 横田 =

悩みも喜びも共有

保健推進員になった当初は警戒され、検診の苦情を言われることもありましたが、不在宅へは何度も訪問し直接手渡し。例年受けない人に検診を勧め受診した時は、とてもうれしいですね。「ご苦労さん」の一言で苦労が報われ活動の励みになります。協議会では何でも話し合い、活動の悩みも喜びも共有する良い関係を築けるよう努力しています。

者が二次検査を受けるまでの不安解消に努めました。

行政は、検診本来の目的である早期発見・治療につなげるため、「一次検査を無駄にしない」を医療機関との合言葉に、二次検査対象者へ受診を強力に勧めました。

初年度の大腸検診は、二千百九十二人が受診し、受診率は29・0%になりました。これは現在の岩手県の平均受診率と比較しても高い数字。受診率向上に取り組んできた成果を垣間見た瞬間でした。

その一方で、検診結果は関係者を驚かせました。精密検査で異常が見つかり、しかも進行がんの状態が多かったことです。町健康福祉課の道ノ下るみ子主任保健師は「大腸がんが増えていることを実感し、また早期発見の大切さも痛切に感じました」。関係者たちは、検診への取り組みに決意を新たにしました。



町健康福祉課健康推進係

みちのした
道ノ下るみ子主任保健師(39)

検診の大切さ実感

精密検査を受けずに出稼ぎに行った人に、何度も電話をかけ検査を勧めたところ、正月休みに帰省し受診。進行がんが見つかりすぐに手術したそうです。その後、幸いにも再発しなかったことを知り、あきらめずに検診を勧めて良かったと実感しました。でも、検診はあくまでも年に一度の健康チェック。普段から自分の体や健康に気を配る生活が大切ですね。

信頼と情熱で構築した協働型の検診推進体制

大腸検診に取り組み始めて今年で十五年。受診率は、当初の二・五倍近い70%前後を保つようになりました。さらに、これまで大腸がんが発見された人は百六十三人で、そのうち早期がんは百一人。毎年検診を受け、早期に発見された受診者で、大腸がんで亡くなる人は皆無。「大腸がんは予防できる」ことを、十五年の取り組みで実証しました。

岩手町は今年、日本消化器集団検診学会東北地方会(盛岡市)、全国保健師学術研究大会(岐阜県)、県保健事業研修会(盛岡市)で、これまでの取り組みの成果を発表。高い評価を受けました。また、大腸検診への取り組みはほかの検診にも波及し、昨年度の平均受診率は70・2%となり、非常に高い受診率を誇っています。

多くの困難に直面しながらも決してあきらめることなく取り組んだ大腸検診。検診推進委員会を中心に、行政、医療機関、地域の三者が一体となり、年月の積み重ねとともに培った信頼と、一人でも多くの人に健康な暮らしを送ってほしいと願う情熱で築いた独自の検診推進体制が岩手町方式。その取り組みは、「協働」そのものです。

現在、全国の自治体の財政はひっ迫し、これまでのような行政主導型の町づくりは難しくなり、「協働のまちづくり」が掲げられるようになりました。しかし、岩手町では二十五年も前から検診を通じた協働のまちづくりが行われ、共に手を携え困難を乗り越えてきました。やればできる「力は私たちの中に、「協働」の土壌はすでに周りにあります。岩手町方式」は、これからのまちづくりのキーワードなのかもしれません。

岩手町の検診

無料(町負担)で行われる検診

検診名	対象	自己負担	町負担
循環器検診	40歳以上	無料	7,340円
胃検診	40歳以上		4,600円
肺検診	40歳以上		900円
結核検診	18歳以上 <small>(来年度から40歳以上)</small>		650円
大腸検診	40歳以上		1,680円
子宮検診	20歳以上の女性		4,500円
乳房・甲状腺検査	40歳以上の女性		3,100円
女性の貧血検査	18~39歳の女性		2,970円

希望により有料(個人負担)で行われる検診

検診名	対象	自己負担	
前立腺がん検診	40歳以上の男性	1,575円	
卵巣腫瘍 <small>しゅよう</small> 検査	20歳以上の女性	1,000円	
乳房エックス線撮影 (マンモグラフィ)	地区公民館 (対がん協会)	40歳代	4,095円
		50歳以上	2,100円
	県立沼宮内病院	40歳代	3,850円
		50歳以上	2,420円

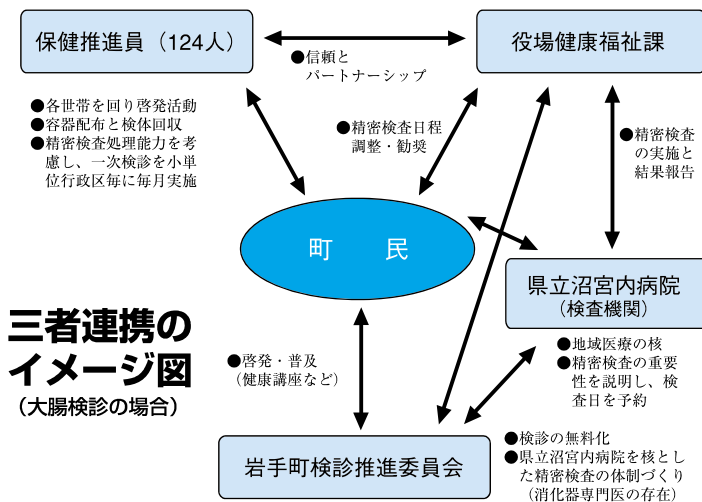
地方の行財政を取り巻く環境が厳しさを増し、県内自治体の多くが検診の有料化に踏み切る中、町では無料化を堅持しています。これは、一人でも多くの皆さんに検診を受けてもらい、健康でいることの幸せを感じながら、「生涯現役」で元気に暮らしてほしいとの願いからです。検診の無料化により町が負担する平成十七年度分の予算は六千四百万円。すべての検診を受けた場合に、町が負担する一人当たりの経費は、男性が一万五千七百七十円、女性が二万二千七百七十円です。また、高度な検査を希望する人たちのために、自己負担による検診も行い、検診の充実と疾病の早期発見に努めています。

検診のここが
すごい
↑
検診料金の無料化

ここがすごい 2 医療・行政・地域一体の推進体制

医療機関、行政、地域の三者が一体となり構築している検診推進体制は、岩手町独自のスタイルであり「岩手町方式」と呼ばれています。「一人でも多くの人に健康な暮らしを送ってほしい」という願いを共有し、受診率の向上と疾病の早期発見・治療を目標に掲げ、積極的に検診に取り組みます。

保健推進員(地域)と保健師(行政)は、対象者の把握と受診勧奨を徹底的に進め、医療機関は受診状況などを行政に報告。行政は未受診者の解消に努め、また、検診推進委員会で評価と指導を受けます。そして、この評価などを基に検診環境の整備や計画の検討が行われます。この繰り返し住民の信頼と健康意識を醸成し、受診率向上と疾病の早期発見に大きくつながっているのです。岩手町の受診率の高さは、この三者一体の取り組みが秘けつです。

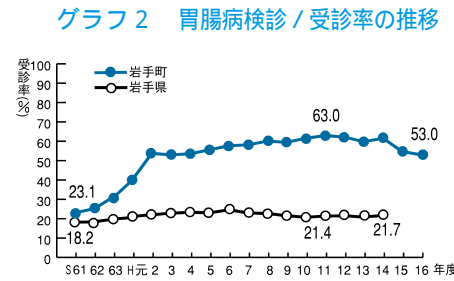
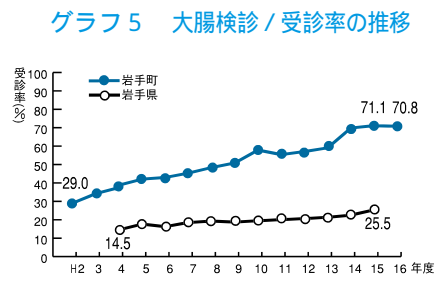
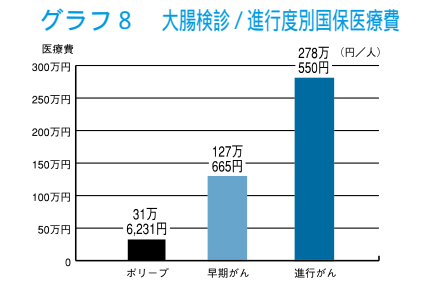
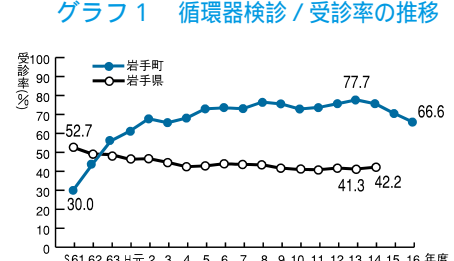
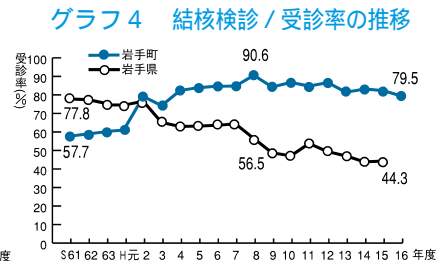
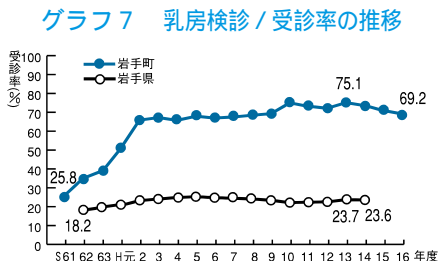
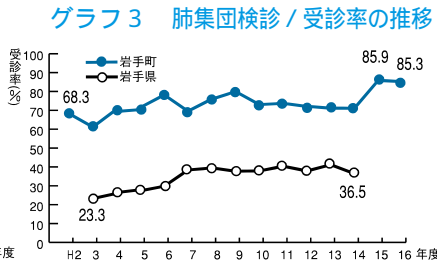
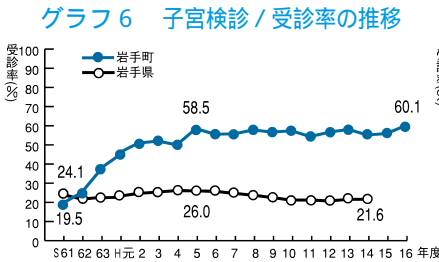


体調や仕事などの都合で受診できなかった住民の結核の追加検診。徹底的な未受診解消も町の検診のすごさです

全国に誇る!!

ここが3 受診率

町の検診は、県の平均を大きく上回る極めて高い受診率を誇っています(グラフ1~7)。受診率の高さは、住民の健康意識の高さそのもの。また、疾病の早期発見・治療は、医療費の抑制にも大きくつながります(グラフ8)。



「笑顔」がやりがい

町保健推進員
はたなか けいこ
畑中 桂子さん(40)=下屋敷=

一人でも多くの住民に検診を受けてもらうための検診の無料化は、とても効果的。担当地域の対象者のほとんどが検診を受けています。検診後、役場から送られた「異常なし」の通知を受診者に配布した時、うれしそうにほほ笑む顔を見ると、保健推進員のやりがいを感じます。また、推進員の活動を通じ、地域やいろんな人たちと交流できたことが、私の財産になりました。

「岩手町の検診の良さを離れてみて実感した」。町外に転出した住民の声に、うれしさと仕事への誇りを感じました。住民の健康への関心と意識は、以前よりとても高くなりました。でも、体の健康だけでなく、心の健康も大切。元気で生き生きと暮らすためにも、何かに感動し、面白いと思える心と体を養いましょう。そのためのきっかけづくりを、私たち保健師がお手伝いします。



離れて実感町の良さ

町健康福祉課健康推進係
さわぐち としえ
沢口 利江主任保健師(46)



継続的な観察可能に

県立沼宮内病院
おかだ ゆきお
岡田 行生院長(63)

岩手町に赴任し、検診活動に一生懸命取り組んでいることを知りました。精密検査を沼宮内病院で行っているためデータがまとめやすく、患者の経過を継続的に見ることが可能に。これは、全国に誇れる活動です。国も検診に力を入れ、早期発見治療で医療費を抑制しようという指針を出しました。今後は大腸、乳房の検診をより充実させ、早期に発見できるよう努めたいですね。

こんにちは、 保健推進員です。

宮古サチエさん(63)は上苗代
沢は、三期九年目のベテラン保
健推進員。「こんにちは、保健推
進員です」。明るく元気な声が玄関先
から家の中へと広がります。「こ
ろまでです」。訪問先の家の人の声
も明るくなります。

地域の人たちともすつかり顔
なじみ。「庭のお花、とてもすてき
ねえ」。世間話にも花を咲かせなが
ら、今度、町の検診がありますよ」
との宮古さんの言葉に、「必ず行き
ますよ」と応えてくれます。岩手
町に暮らす人たちの玄関先で繰り
広げられる、ごく普通の光景です。

この光景が普通に感じられるま
では、保健推進員、町内医師団、
保健師たちの言葉には言い尽くせ
ないほどの苦労と努力がありまし
た。玄関先で怒鳴られたこともあ
りました。吹雪の中、雪をかき分
け健康講座に向かったことも。や
つと受けてもらえた検診なのに、
すでに進行がんでやりきれない気
持ちになったことも。つらく苦し
い思い、自分の無力さを感じ「何
のためにこんなに頑張らなきゃい
けないのだろう」と道を見失いか
けたこともありました。

そんな時、わいてくるのは「あ
きらめちゃいけない」という言葉。
もう一声掛ければ検診を受けてく
れるかもしれない。もう一回訪問
した時には話を聞いてもらえるか
もしれない。もう少し、病気や検
査について理解してもらえれば、
受けてもらえるかもしれない。あ
ともう少し…、その努力で救える
命があるかもしれない。だから、
「あきらめちゃいけない」。

「一人でも多くの人が、病気を
早く見つけて治し、健康な暮らし
を送ってほしい」。そういう気持ち
が伝わってくれたらうれしいと、
宮古さんも頑張ってきました。

つらく苦しい時を乗り越え、今
に至っているのも、その強い信念
があったから。そして何より、同
じ目標と悩みを持つ大勢の仲間た
ちがいたからです。保健推進員、
町内医師団、保健師たちは、互い
に支え合い、励まし合い「検診受
診率の向上」を目指して頑張っ
てきました。

四半世紀にも及ぶ歴史を積み重
ね、住民と三者が少しずつ培っ
てきた信頼。強い信念の下、それぞ
れが熱い情熱を傾けてきた町の検

診事業は、全国に誇る受診率の高
さと岩手町独自の検診体制を築き
ました。

特集の取材先でよく耳にしたあ
きらめない」という言葉。それは
努力を続けるというだけでなく、
「命」をあきらめないという意味
が込められていました。家族も地
域の人もみな大切な命。町に暮ら
す一人ひとり大切な「あなた」の
命を私たちは決してあきらめない。
生涯現役で暮らせる健康福祉の
町・岩手町に暮らす「あなた」が、
この先も健康でいることの幸せを
感じてもらえるように。

特集 信頼と情熱で築いた検診
の軌跡「あきらめない」――終わり

特集 信頼と情熱で築いた検診の軌跡

「あきらめない」

「一人でも多くの人に、健康な暮らしを送ってほしい。そういう気持ちで伝わったらうれしい。」



写真 = 保健推進員の宮古サチエさん(上苗代沢)

輝く未来へ 飛躍を誓う



記念式典で校歌を斉唱し岩瀬張小の創立100周年を祝う児童と出席者たち

岩瀬張小（吉田信男校長、児童十三人）の創立百周年記念式典・祝賀会が十一月六日、同校体育館で行われ、町内外の来賓、在校生や地区民など約二百人が出席し創立から一世紀の

歩みを振り返り、歴史的節目を祝いました。式典では、吉田校長が「激動の百周年に多くの苦難を乗り越え、岩瀬張小で培ってきた業績と伝統をしつ

岩瀬張小が創立100周年

かり受け継ぎ、教育目標の『かしく、やさしく、たくましく』生きる児童の育成にまい進します」と式辞。笹渡昇記念事業実行委員会長のあいさつの後、飯岡和夫第八代校長や岩崎忠衛第十五代PTA会長など、歴代の校長とPTA会長それぞれ十二人に感謝状を贈呈しました。式典後、同校敷地内に「輝け未来へ」と刻んだ記念石碑の除幕を行い、新たな飛躍を誓い合いました。同校は、明治三十八年に御堂村立五日市尋常小学校岩瀬張分教室として創立。昭和二十二年に同五日市中学校岩瀬張分教室が設置され、三十年の町村合併により岩手町立岩瀬張小学校・中学校とそれぞれ改称。平成二年同中学校を閉校。これまでに六百四十六人の卒業生を送り出しています。



「輝け未来へ」と刻まれた記念碑を除幕。岩瀬張小の発展をみんなで願いました

大人への第一歩を祝う 成人式は1月8日(日)

「大人への第一歩」を祝う平成十八年の町成人式が来年一月八日(日)、岩手広域交流センター・プラザあいで行われます。

来年成人式を迎えるのは、昭和六十年四月二日から六十一年四月一日までに生まれた人です。対象者には、詳細についてはがきでお知らせしています。出欠席の報告がお済みでない人は、早めにご連絡ください。

また、就職や進学で町外に転出している人も参加できますのでぜひ参加ください。

【日時】平成十八年一月八日(日)受付正午～、式典午後一時～、記念行事午後二時～

【場所】岩手広域交流センター・プラザあい
【記念講演講師】数学者・秋山仁氏

【申し込みと問い合わせ先】役場社会教育課生涯学習係 ☎21111内線344

秋山仁(あきやま じん) 昭和二十一年十月、東京生まれ。上智大学大学院数学科卒。ミシガン大数学客員研究員、東京理科大学教授などを歴任。現在、東海大教授。テレビやラジオでも活躍。理学士、数学者。



記念講演の講師を務める秋山仁氏



結婚生活50年の節目を二人で迎えた喜びをかみしめる金婚夫婦。
手を携え歩んできた半世紀の歴史に思いをはせ節目を祝いました

町社会福祉協議会（柴田光蔵会長）主催の結婚生活五十年を祝う金婚式と慶祝会が十一月一日、町総合開発センターで行われました。

今年町で仲良く金婚式を迎えたのは、岩手町誕生と同年の昭和三十年に結婚した夫婦六十五組。結婚以来、苦楽を共に

しこの日を迎えた幸せを、夫婦は互にかみしめました。

柴田会長は「結婚生活五十年はとてもしこの日を迎えた幸せを、夫婦は互にかみしめました。意義深く、年月を重ねるだけでは成し得ない宝。本日の式を契機に、さらに健康に気を付け、夫婦円満で仲むつまじく幸せな人生を送ってください」と、金婚夫

婦の未長い幸せを祈りました。

また、祝宴には川口保育所の園児たちがお祝いに駆け付け、かわいい踊りを披露。祝いの席を一層盛り上げました。

出席した夫婦たちは、手を携え歩んだ二人の歴史に思いをはせ、朗らかに思い出を語り合いました。

金婚夫婦65組

夫氏名・妻氏名(行政区)。敬称略

- 川又福松・洋子(前ヶ沢)
- 沢瀬喜市郎・カチ工(御堂新田)
- 早坂源太郎・ソノ工(尾呂部)
- 早坂春蔵・ミノル(尾呂部)
- 田ノ岡孝太郎・トヨ(尾呂部)
- 横沢忠一・キヨシ(尾呂部)
- 民部田実・タエ(川原木)
- 浅沼秀雄・キクノ(豊岡)
- 山口政太郎・ミサホ(大坊)
- 土橋清・ツヤ(大坊)
- 西館栄三・ナカ(大坊)
- 山中喜一郎・ヨシノ(曲り)
- 畑中豊吉・ミツ(下屋敷)
- 引木光一・ミキ(葉ノ木)
- 山中兵衛・ナツ工(葉ノ木)
- 大村悟・ミノル(万部)
- 大村谷蔵・スエ(万部)
- 横沢武・ムネ子(上五日市)
- 白根由朗・ウメ(上五日市)
- 横沢与四郎・ミツ工(下五日市)
- 築場輔夫・貞子(下五日市)
- 村山清一郎・ミワ(城山)
- 留場金五郎・イト(城山)
- 民部田敬二郎・テツヨ(民部田)
- 西館松次郎・ミエ(民部田)
- 田村益栄・フサ子(柳橋)
- 工藤安男・色子(上大町)
- 佐々木竹松・タミ(栄小路)
- 田中米吉・ミチ(下大町)
- 大久保正八・ヤエ(上野口町)
- 大坊郁夫・京子(下野口町)
- 小林茂・カヨ(上愛宕下)
- 沢瀬丑太郎・好(新愛宕下)
- 阿部功・スエ(上苗代沢)
- 西島惣太・ユミ(上苗代沢)
- 田中治三郎・ミサ(上苗代沢)
- 前川幸一郎・イサホ(下苗代沢1)
- 野崎与五郎・チギ(子抱団地)
- 中村清・ミツ(細沢)
- 三浦吉太・ナツ(太田)
- 遠藤良章・和栄(横田)
- 橋本基助・ミドリ(横田)
- 田中徳男・勝子(半在家)
- 帷子定夫・しげ子(久保)
- 田中清巳・ハツミ(土川)
- 田中勝義・キク工(土川)
- 三浦吉太郎・タマ(黒石)
- 遠藤鉄巳・トス工(黒石)
- 丹内盛・キ工(黒石)
- 三浦忠資・キミ工(黒石)
- 武田吉男・キワ(葉木田)
- 宮崎金四郎・ヨシノ(葉木田)
- 今松誠一・サヨ(今松)
- 千葉要吉・ヤエ(上鴨沢)
- 黒沢藤雄・リヤ(下鴨沢)
- 遠藤豊治・フミズ(下鴨沢)
- 四日市正則・キミノ(子抱)
- 高橋金四郎・キクノ(橋場)
- 瀬川文男・光枝(橋場)
- 村井清光・テル(下町)
- 竹花武雄・トワ(山道)
- 桜場与三郎・トシ(境田)
- 橘弥三郎・ナツ子(大渡)
- 中関三太・タヨ子(大渡)
- 向井権太郎・ミエ子(穀蔵)

町の元気一堂に披露 実り豊かな秋を満喫

イベントなど趣向凝らし
活気ににぎわいあふれる

第二十五回町産業まつりが十月二十九、三十日の両日、岩手広域交流

センター・プラザあいをメイン会場に開かれました。農・商・工業など町のあらゆる産業が一堂に集い、駅周辺は終日にぎわいました。テープカットと城山保育園児たち



歓声を挙げながら袋いっぱい新鮮野菜を詰め込んだ野菜のつかみ取り大会（町産業まつり）

のかわいいマーチング演奏で華やかに開会すると、来場者たちは次々と会場の中へ。ずらりと並んだテントの下では、新鮮な野菜などを求める人や各コーナーに興じる人たちの声が飛び交い、活気に包まれました。また、いわて春みどりキャベツの早食い大会やもちまき、わんぱく丸太切り大会、カラオケ大会などが次々と催され、会場はまつりを楽しむ人たちの笑顔であふれました。

みんなでつくる芸術の秋 静と動の美で観衆を魅了

町内の文化と芸術の祭典、第四十四回町芸術祭が十一月十一日から三日間、町教育委員会、町芸術文化協会、町産業まつり実行委員会の共催で開催されました。

展示部門は、岩手広域交流センター・プラザあいを会場に開かれ、一般と児童生徒の作品がプラザあいの各



日ごろの練習の成果を元氣いっぱいステージ発表した町芸術祭の舞台部門

室に展示されました。一般の部には、町内の愛好家たちによる絵画や書道、華道、写真、文芸、手工芸など力作が勢ぞろい。また、児童生徒の部では、力強い筆運びで書かれた習字や色彩豊かな図画などが並べられ、観覧に訪れる人たちの目を楽しませました。

一方、ピアノや大正琴、日本舞踊、コーラス、ジャズダンス、吹奏楽など十五団体が参加した舞台部門は、芸術祭最終日となる十三日、町総合開発センターで行われました。

出演者たちは、日ごろの練習の成果をステージで一生懸命に披露。会場に詰め掛けた大勢の観客から、惜しめない拍手が送られました。

平和への誓いも新たに 503柱に哀悼捧げる



仏前に菊の花を捧げ戦没者のめい福を祈った町戦没者追悼式。戦後60年の節目の時を迎え恒久平和への思いを新たにしました

町戦没者追悼式が十月十五日、町総合開発センターで行われました。昭和二十年の終戦以来、六十年の節目の時を迎えた遺族たちは、平和への願いを新たにし、戦争で無念の最後を遂げた五百三柱の御霊に哀悼を捧げました。

式には、町遺族連合会(帷子敏雄会長)の会員や町関係者など約二百人が参列。民部田幾夫町長は「先の大戦のような惨禍が再び起こらないよう、恒久平和のため不断の努力を傾注することを固く誓います」と式辞を述べました。

参列者は仏前に菊の花を捧げ、祖国と家族の安泰を願いつつ戦死した家族のめい福を静かに祈りました。

工藤忠雄町議が逝去



長などの要職を歴任。昨年七月には町議三選を果たすなど、今後の活躍が大きく期待されていました。

町議会議員の工藤忠雄氏(横田)が十一月二日午前五時五十六分、盛岡市内の病院で逝去されました。六十三歳でした。

工藤氏は、平成八年の町議会議員選挙で初当選以来、町の発展と住民福祉の向上のため尽力。さらに、議会の各種常任委員長、審査特別委員長などの要職を

一方井 立花久幸氏が逝去



一方井財産区管理会会長の立花久幸氏(一方井)が十一月十三日、逝去されました。八十三歳でした。

立花氏は、岩手中央酪農業協同組合専務理事、岩手中央森林組合長、一方井土地改良区理事長、町農業委員会委員、一方井財産区管理会会長の要職を歴任。町

議会副議長を務めるなど、町勢の発展と農林業の振興、住民福祉の向上に尽力されました。



みんなのた場

皆さんが作る楽しいスペースです。あなたもぜひ登場を。町政や町民生活に関して、言いたいこと、聞きたいこと、呼び掛けたいことなど、あなたの声やあなたの地域・職場での話題をお寄せください。投稿と問い合わせは役場企画商工課統計広報係 内線376まで。

南山形小を会場に防御訓練 火災の無い安心の町を願う

秋の全国火災予防週間（期間〓十一月九〓十五日）の十一月十三日、火災防御訓練が南山形小学校を会場に展開されました。

「校舎内から火災発生」の想定で、児童と教職員たちは素早く避難。また、火災発生との連絡を受けた消防団員や消防署員たちが、消



消防署員から消火器の操作方法を教わり初期消火訓練に挑戦する南山形小の児童

防車や小型ポンプ車、救急車に乗り続々と集結しました。署員たちは、避難の際にけがをした児童を素早く救護。さらに、消防団員と共に正確機敏な動きで一斉放水し、鎮火。果敢な訓練を披露しました。早坂信一団長は「地域と一体となった訓練は効果も

大きい。訓練を契機に一層防火活動に努めてほしい」とあいさつ。民部田幾夫町長は「安全で安心して暮らせる地域や町を願うとき、火災予防は大きな課題。一件でも火災の無い地域を目指したい」と無火災への決意を新たにしました。また、佐藤利栄岩手分署

長が講評。「避難訓練、遠距離送水とも適切で、全体的に素晴らしい出来栄でした」とたたえました。その後、煙体験や初期消火訓練、心配蘇生法やAED（自動体外式除細動器）を使った救命救急処置の講習などが行われ、万一の時の対処法を学びました。

美しい音と心のハーモニー 体育館いっぱいに響かせる

町学校教育研究会（会長・佐々木三夫沼宮内小学校）主催の第三十七回町小中学校連合音楽会が十一月



心を一つにして美しいメロディーを奏で日ごろの練習の成果を発表した町小中学校連合音楽会

八日、沼宮内小体育館で開かれました。町内十三小学校の児童生徒約五百人が一堂に集い、合唱や合奏など日ごろの練習の成果を披露しました。

沼宮内小は金管合奏で「マツケンサンバ」を、北山形小は日本民謡の「ソーラン節」を合唱。また、沼宮内中吹奏楽部はジャズ音楽を演奏するなど、各校特色ある音楽を会場いっぱいに響かせました。心を一つにして奏でた美しいハーモニーは、聴衆を大いに魅了しました。

いつか
どこかで



僕の夢 私の夢 197

たきさわけい たちばなとしき
(左から順に) 滝沢慧くん、橘 俊貴くん、
かりしゆくかずき
苅宿 麗輝くん (南山形小5年生全員)

“芸”に磨きを掛ける!?

将来、「医者になって人を助けたい」慧くんと「中華料理のコックさんになりたい」俊貴くん、「大工になって大きな家を建てたい」麗輝くんは、仲良し3人組。収穫祭で披露するコントやマジックの練習に一生懸命です。時間を見つけては“芸”に磨きを掛けます。

スポ少のホッケー選手で、冬季は体育館でのユニホックに夢中。「12月の大会で優勝するぞ」と声をそろえます。得意な科目は、それぞれ社会、総合学習、理科。でも、「苦手な科目も得意になれるように頑張ります」とまたまた声をそろえ、元気いっぱいです。

いわてっ子 197

力行さん・千賀子さん夫妻の長男・石神

いしかわ ひろあき
石川 寛晃くん(2歳6カ月)

姉の純恋とけんかをしては、泣かせてしまうほどのきかん坊。でも、弟・寛和ひろかずをあやして笑わせるなど、優しい一面もあります。ボール遊びや歌、踊り、ままごと遊びが大好き。食べ物では、みかんなどの果物が好物。苦手な野菜もいっぱい食べて、名前のとおりヒーローのようにかっこよく、強く明るい子に育ててほしいですね。(母親・千賀子さんの話)



ボール遊びが大好きな寛晃くん。お家の中でもはつらつプレー!?

おじいちゃん 197

ひ孫と遊ぶのが楽しみ

さ さ き
佐々木 タヨさん(86歳)、水堀

「ひ孫の亜門 と遊ぶのが毎日の楽しみ。私の後ろに付いて歩く姿がかわいいんだよ」というタヨさんには、孫が17人、ひ孫が11人。「9月にひ孫が二人増えました。早く会いたいねえ」と心待ちにしています。

夏は庭の草取り、冬は針仕事に精を出すほど元気いっぱい。週1回通うデイサービスでは、旧友と思いい話に花を咲かせ、若いころのようにはしゃいでしまうとか。食事の好き嫌いもなく「規則正しい生活を心掛けている」のが、健康の秘けつかもしれない。

「昔は家族の服も縫ってあげたんだよ」と懐かしむタヨさん。静かに針を進める顔は、とても朗らかです。

沼中で教育振興の集い

沼宮内中学校区教育振興の集い「森知英ピアノコンサート」が十月二十二日、同校で開かれました。森さんは、盛岡市出身のピアニストで、ベートーベン国際ピアノコンクール四位入賞など、国内外でコンクール入選を果たす実力派。当日は、「ドビュッシー「月の光」やシヨパン「革命」、ベートーベン「エリーゼのために」など十曲を披露。繊細に、時には力強く奏でられる美しいピアノ演奏に、聴衆は熱心に聞き入り酔いしれました。

盛岡出身のピアニスト 森知英さん招き演奏会



丹藤川遊歩道など整備



楽しむ会さわやかに汗 快適な紅葉散策を演出

町内有志で構成する「丹藤川を楽しむ会」と町役場職員などは十月十六日、本格的な紅葉シーズンを前に、丹藤川を訪れる人たちが安全にその魅力を楽しめるよう、遊歩道などを整備しました。丹藤川溪流は、美しい紅葉でも知られる観光スポット。当日は、同会が中心となり、雨などで侵食された遊歩道を補修し、歩道脇に手すりを設置しました。会員たちは、少しずつ色付き始めた渓谷の中で、さわやかな汗を流しました。

一般(4^人×3人) 団体 一方井体協C(44分12秒) 一方井体協A(45分38秒) 横沢チーム(47分21秒) 個人 千葉博文(一方井体協C)13分58秒 鈴木雅司(同A)14分9秒 森子栄蔵(横沢チーム)14分29秒

東アジアホッケー金メダル 小沢みさき選手が優勝報告

東アジア大会(10月26日 - 11月6日、マカオ)のホッケーで優勝し金メダルを獲得した女子日本代表チームのFW小沢みさき選手(富士大2年) = 相寅瀬出身 = は11月15日、富士大の西田範次監督、藤原研樹コーチとともに役場町長室を訪れ、東アジア王者に輝いた喜びを報告しました。

同大会で日本は、予選3試合を全勝し、決勝の韓国戦も3 - 1で快勝し東アジアの頂点に。小沢選手も4試合に途中出場し、2得点を挙げる活躍でチームの勝利に大きく貢献しました。小沢選手は「来年4月のワールドカップ予選と北京五輪出場権を懸けた12月のアジア大会(カタル)へつながる自信と経験を得ることができました」と、自信と意欲をのぞかせました。



金メダルを胸に関係者とともに役場町長室を訪れ東アジアの王座に輝いた喜びを報告した小沢みさき選手 = 右から二人目

東北高校選抜ホッケー大会 沼宮内男女が春の選抜切符

東北高校選抜ホッケー大会が11月4 - 6日、福島県棚倉町ルネサンス棚倉人工芝ホッケー場で行われ、沼宮内が2年ぶりの男女優勝を果たしました。

沼宮内男女は、来年3月26 - 30日に高知県で行われる全国選抜大会への出場権を獲得しました。

川口小で秋サケ給食会

十一月十一日の「鮭の日」にちなみ、秋サケ学校給食会が川口小で開かれました。県では秋サケの消費拡大を目指し、平成八年度から学校給食での利用を推進。長沢忠雄盛岡地方振興局長が川口小を訪れ、四年生児童二十人とともに塩焼きで提供された旬の秋サケを堪能しました。また、町産米いわてつこを使った雑穀ご飯や町産やまと豚を使った豚汁など、すべてのメニューが県産食材で提供され、岩手の旬を丸ごと味わいました。



川口野球少が清掃活動



十一月十一日は鮭の日
岩手の旬を丸ごと堪能

団員など約40人が参加
ごみ拾いで地域に貢献

日ごろお世話になっている地域に貢献しようと川口ライオンズ野球少年団（和田秀斗団長、団員二十五人）と同育成会（和田英明会長）は十一月五日、川口地区の商店街などで清掃活動を展開しました。参加した団員と育成会員約四十人は、働く婦人の家から川口小まで約一・五キロの道のりを歩き、ごみを拾いました。清掃活動終了後、団員と育成会員たちは、交流試合や親ほく会を開催。団結を深め、来季の活躍を誓いました。

スポーツ

健康体力づくり推進宣言のまち 岩手町

第50回町民駅伝大会で快走 さわやかに204人が健脚競う

第50回町民駅伝大会が11月3日、沼宮内中学校を発着点とする周回コースで行われ、小中学生と一般の44チーム204人が健脚を競いました。選手たちは沿道から声援を受け、秋色深まる岩手路を快走。心地良い汗を流しました。大会の主な結果は次のとおりです。

小学生(2^区×5人) 男子団体 川口A(38分50秒) 沼宮内A(39分23秒) 北山形(40分12秒)

女子団体 沼宮内A(42分15秒) 沼宮内B(42分58秒) 一方井A(43分12秒) 男子個人 橋本航太(久保)7分3秒=新記録 藤原聖也(南山形)7分20秒=新記録 高村俊生(北山形)7分21秒=新記録 竹田光一(川口A)7分24秒 佐藤秀平(同)7分28秒

女子個人 上館千里(沼宮内A)7分58秒=新記録 国枝優紀(一方井A)8分2秒 佐々木優希(久保)8分17秒 沢口真美(沼宮内A)8分22秒 柚千里(沼宮内A)、大坊花奈(同B)8分26秒

中学生 男子団体(4^区×5人) 川口A(1時間13分35秒) 沼宮内A(1時間14分1秒) 一方井A



力いっぱい走り切った選手が到着。たすきを渡された次走者が秋風薫る岩手路へさっそうと駆け出しました

(1時間14分5秒) 女子団体(2^区×5人) 沼宮内A(39分55秒) 一方井A(40分45秒) 川口A(42分20秒) 男子個人 三浦悟(沼宮内A)13分47秒 田中祐也(一方井A)14分11秒 小沢健至(東部B)14分19秒 引木智徳(同)14分25秒 橋本大地(川口A)14分26秒 女子個人 河井香月(沼宮内A)7分23秒 田ノ岡愛実(同)、大巻紗千(一方井A)7分45秒 高橋沙織(沼宮内A)7分54秒 今松望(一方井A)8分1秒

今月は下川原キクノ准看護師からのお便りです
保健のご相談は役場健康福祉課健康推進係
内線②2111、516、517へ

予防接種が大きく変更に!! きちんと把握し正しく接種

今年と来年で変わる 子ども対象の予防接種

今年から来年にかけて、予防接種の方法が大きく変わります。今月は、予防接種の主な変更点をお知らせします。

【結核】結核の予防接種であるBCGを接種できる期間が生後三カ月～四十八カ月から出生直後～生後六カ月未満に変わり、保健センターなどでの集団接種から医療機関での個別接種になりました。

【日本脳炎】第一期(三歳以上の幼児)と第二期(小学四年)は、安全なワクチンが製造され接種できる体制が整うまで接種を見合わせます。第二期(中学三年)は、廃止になりました。

【麻しんと風しん】来年の四月から、麻しんと風しんの混合ワクチンを二回接種することになります。対象者には個別に通



知しませんが、第一期は生後十二カ月～二十四カ月の間に、第二期は小学校入学の一年前～入学するまでの間にそれぞれ一回接種になります。

現在は、麻しんと風しんの対象年齢が生後十二カ月～九十カ月と期間が長いため、まだ接種していない子どもの中には、来年四月以降に対象年齢から外れる子どもいると思われます。来年四月時点で生後二十四カ月を超える子は、母子手帳を確認し麻しんや風しんの予防接種を受けていない場合、来年の三月三十一日まで受けましょう。それを過ぎると任意接種となり有料になりますのでご注意ください。

また、これから対象年齢になる子どもは、生後十二カ月に達したら、できるだけ早く麻しんの予防接種を受けましょう。麻しんは、高熱やせき、全身の発しんなど重症になりやすい病気

です。来年四月からの混合ワクチンを持つている間にかかる可能性もありますので、早めの接種をお勧めします。
なお、麻しんや風しんの単独ワクチンを接種した子どもは、生後二十四カ月未満でも混合ワクチンの接種はできません。

インフルエンザ予防に 高齢者の接種費用助成

六十五歳以上の人がインフルエンザ予防接種を受ける場合、町では費用の一部を助成しています。インフルエンザの予防接種は、法律上の義務ではありませんが、抵抗力の弱いお年寄りがかかると重症化しやすいので、できるだけ受けましょう。

接種を希望する人は、町から届いている予診票(接種券)に記入し、医療機関に持参してください。予診票は、十二月二十八日まで有効です。

また、六十～六十四歳の人で、心臓や腎臓に重い病気がある(障害者手帳一級程度)人も町の助成が受けられます。希望する人は、障害者手帳を持参し、健康福祉課に申し込んでください。

やさしさを持ったまち (住民生活課児童係)

父親のいない家庭には 児童扶養手当が支給されます

【受給資格がある人】次に該当する児童の母または、20歳未満で一定以上の障害がある児童の母や、その児童を養育している人

両親が離婚 父が死亡または重度の障害者 父が1年以上同居せず生計を投げ出している 児童が婚姻によらないで生まれた場合など

【受給資格がない人】支給要件に該当していても、次の場合は受給資格

がありません。 児童または手当を受けようとする人が公的年金を受けられる 児童が父に支給される公的年金給付の加算対象になっている(ただし、老齢福祉年金は除く) 児童が児童福祉施設に入所しているなど

【支給を受けられる期間】児童が18歳に達する年度末まで(一定以上の障害がある児童の母やその児童を養

育している人は、児童の20歳の誕生日の前日まで)。

ただし、手当請求者の前年の所得が一定額を超える場合は、支給を一定期間停止します

【支給額(月額)】児童が1人の場合41,880円、2人の場合46,880円、3人目以降は1人につき3,000円加算

【問い合わせ先】役場住民生活課児童係 62-2111内線214

12月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31
1/1	2	3	4	5	6	7

印は休館日 火、水、金曜日 9:00-18:00
木曜日サービス日 9:00-19:00
土・日曜日 9:00-17:00

書名	著者
愛するということ	小池真理子
デカルトの密室	瀬名 秀明
女王様と私	歌野 晶午
悪意の手記	中村 文則
カオス	梁 石日
懐郷	熊谷 達也
東京奇譚集	村上 春樹
悪党たちは千里を走る	貫井 徳郎

【おはなし会】 日時：12月13日(火)午前11時 場所：町立図書館 内容：絵本の読み聞かせや手遊びなど
【お知らせ】 「クリスマス展」 クリスマスの絵本などを展示、貸し出します。



図書館には、今月も話題の図書がいっぱい。心の内から温まるような一冊で寒さを吹き飛ばそう。

新着図書案内

漆黒泉 **森福都**
幼い日に一目で恋した美ぼうの婚約者は、私の成長を見ずに殺された。繁栄を極める宋の国、茶商のおてんば娘・芳娥は、夫の敵の命を狙い、夫の夢だった漆黒泉を探す旅に出る。

東京DOLL **石田衣良**
青く透明なビルとつづろさが混在する東京湾岸。MGと呼ばれる天才ゲームクリエイター。背中に濃紺の翼のタトウエーター。背中にリガ、彼の孤独を変えてゆく。パーフェクトな人形に恋をした男の物語。

浄土の帝 **安部龍太郎**
帝の権威さえ揺らいだ末法の世・平安末期。自らの存在理由を、後白河帝は民衆とのつながりに求めた。権謀術数に長けたとされる後世の評価に挑み、理想の帝王像に苦悩する後白河院の前半生を描く。

楽園の眼り **馳星周**
女子高生と刑事。夜の闇の中、底なしの欲望と孤独に苦しめられる男と女。罪悪感に加虐心を加速させる。幼児虐待に潜む暗いわな。

文芸

俳句

奮魂碑鎮もる宮の紅葉濃し
遠山のうす紫に粧いけり
豆引の渉る日和続きけり
品種名覚へ切れずに林檎売る
開拓の苦勞の記録紅葉山
塗りたての鳥居の赤や秋日和
生業の気負いいつぱい大根干す
人恋しければつぶやき十三夜
亡父の藏残すと決めし十三夜
落葉舞ひ柵田の空を奪ひけり
十三夜一葉の書を繙きぬ
かの寺のひでひら椀の南瓜粥
小春日の聞こえぬ同志高笑ひ
葉末ゆれ鬼面鵞のはやえじき
明日といふあてなきまゝに秋耕す
一隅を照す如来に秋の薔薇

川柳

席題「鉢巻き」

戸笠村琴草 選

佳句
新じゃがにはち巻きしての塩かげん
鉢巻きをすればその気になつてくる
八チマキをしめたばかりに駆り出され
鉢巻きをすれば魚も生き返る
騎馬戦のはち巻き血湧き肉おどる
鉢巻きも凜々しく合併の町みこし
鉢巻きをしめて園児の駒踊り
祭りの娘粋な鉢巻き勇み肌

秀逸
自 佐藤 小 草
佐藤 送 仙
馬 淵 草
菊 池 一 覚
久 慈 正 和
四 日 市 俊 悦
柴 田 満 子
高 橋 麗 子
山 口 國 男
山 崎 達
松 村 黄 菅
藤 澤 今 生 子
西 田 美 季
高 橋 加 津 夫
佐 藤 栄
齊 藤 美 代
伊 藤 梅 子
佐 々 木 ケ イ 子
田 中 定 憲
遠 藤 初 枝
佐 々 木 小 夜
川 原 程 子
川 原 道 程

町民カレンダー

広報掲載後に予定が変更になる場合もありますが、そのときは、回覧や広報などでお知らせします。なお、町内の団体などもこの欄をご利用ください。

12月

日(曜)	時間	行事名	場所
15	10:00~	独居老人昼食会	老人福祉センター
17	9:00~	第32回町民卓球大会(18日まで)	川口社会体育館
18	9:30~12:00	町民健康講座 「大腸がんについて」 「健康ってなんだろう」	プラザあい
20	9:00~	7カ月児相談・離乳食講話 (平成17年5月生まれ)	保健センター
	9:00~12:00	人権・行政・消費者相談所	勤労青少年ホーム
	10:00~11:30	介護相談・高齢者健康相談	水堀いきがし交流センター
	13:00~	1歳児健康診査(平成16年12月生まれ) 1歳児に限らず、診察を希望する人は おいでください	保健センター
22	10:00~15:00	社会保険事務相談所	町商工会館

1月

日(曜)	時間	行事名	場所
1	9:30~	2006年町元旦健康マラソン大会	沼宮内稲荷神社発着
8	13:00~	平成18年町成人式	プラザあい

12月の休日当番医

変更になる場合がありますので、あらかじめ電話で確認の上、来院ください。

日 曜	当番医	電話番号	日 曜	当番医	電話番号
18(日)	佐渡医院	62-3211	1月の休日当番医		
23(金)	岩手沼宮内クリニック	61-2025	1(日)	北上脳神経外科クリニック	61-3636
25(日)	塚谷医院	62-1155	2(月)	一方井診療所	62-2659
29(木)	さわやかクリニック	62-2043	3(火)	佐々木医院	62-2234
30(金)	和田医院	65-2321	8(日)	坂井医院	62-5111
31(土)	県立沼宮内病院	62-2511	9(月)	岩手沼宮内クリニック	61-2025

県立沼宮内病院12月の応援診療科

診療科	診療日	受付時間	診療科	診療日	受付時間
呼吸器科	26日	13:00~15:00	脳神経外科	27日	8:30~11:00
循環器科	15日	13:00~16:00	皮膚科	毎週火曜日	13:00~15:30
小児科	毎週月・金曜日 (23、30日は休診)	13:00~16:00	耳鼻咽喉科	28日	13:00~16:00

医師の都合により予定を変更する場合がありますので、事前に問い合わせください(県立沼宮内病院 62-2511)。なお、平成18年1月から施設内は全面禁煙になります。



平成17年10月受け付け分

お嬢さん、お嫁さん 4組(7組)

10月			
日	お名前	世帯主	行政区
1	高橋 浩 江刺家 縁	本人	民部田盛岡市
1	安達 健 金子 昌代	本人	上町
8	早坂 孝樹 高橋 さや香	孝美 本人	尾呂部盛岡市
24	中川 誠 府金 明佳	登 信	雫石町下野口町

生まれたお子さん 7人(11人)

9月			
日	お名前	保護者	行政区
25	三浦 佑心	正久	土川
29	田中 希優	新一	民部田
10月			
2	高館 カンナ	義行	上苗代沢
8	田中 詩穂	正樹	一方井
12	三浦 巴那	一典	新愛宕下
13	岩崎 朱花	大輔	岩崎
13	高橋 雅子	正次	下苗代沢1

亡くなられた方 15人(18人)

10月			
日	お名前(年齢)	世帯主	行政区
2	柴田 國夫(55)	華易	上五日市
2	遠藤 八ル(87)	輝一	大森
6	高橋 栄子(49)	正尚	駒通
10	久保三次郎(84)	昭一	野原
12	高橋権太郎(88)	義男	柳橋
14	戸田亀一郎(82)	実	上愛宕下
15	佐々木善之助(92)	善一	落合
16	田村 又吉(73)	喜藏	太田
17	中村 ナカ(82)	誠一	上鳴沢
17	山口喜一郎(85)	富雄	下苗代沢1
24	佐藤 正直(81)	キクエ	橋場
26	柴田新太郎(80)	博	田中
26	森 刃太郎(79)	勝巳	水堀
28	中嶋直次郎(81)	キミ	城山
28	又重 繁雄(55)	本人	下浮島

広報に掲載を希望しない人は、届出の時に町民課にお話してください。
()内は実数。お嬢さんお嫁さんは、結婚して町内に住所がある人を掲載。

人口の動き(17.10.31現在)

男	女	計
8,328人	8,629人	16,957人
(18人)	(10人)	(8人)
5,331世帯(8世帯)		
出生・11人	死亡・18人	
転入・22人	転出・25人	
()内は前月比		

定年の引き上げや 継続雇用が義務に

少子高齢化の急速な進行で、今後、労働力人口の減少が見込まれています。日本経済の活力を維持していくためには、高齢者の能力を活用することが重要です。

このため、高齢者雇用安定法が改正され、平成18年4月から、年金支給開始年齢までの安定した雇用確保のため、事業主は、定年の引き上げや廃止、継続雇用制度の導入が義務付けられました。

詳しくは最寄りのハローワークに問い合わせください。

【問い合わせ先】盛岡公共職業安定所 019-651-8811

万一の自動車事故 無料で相談できる

日本損害保険協会では、自動車損害賠償責任保険や任意自動車保険の請求に関すること、過失割

合や損害賠償など交通事故全般について、無料で相談に応じています。万一の事故の際は、一人で悩まず気軽に相談ください。

【問い合わせ先】日本損害保険協会東北支部盛岡自動車保険請求相談センター 019-651-4495

回収した電話帳は 新しくリサイクル

NTT東日本岩手支店では、12月中旬に順次新しい電話帳を各家庭や事業所へ届ける予定です。その際、現在お使いの電話帳は配達員へお渡しください。

NTTでは、回収した古電話帳を新しい電話帳へ完全リサイクルすることで地球環境保護に努めています。なお、配達員に渡せなかった場合は、後日回収に伺いますので、タウンページセンターまで連絡ください。

【問い合わせ先】タウンページセンター 0120-506-309

たこ揚げのときは 電線の無い場所で

東北電力㈱では、電気工事店などの協力で公衆感電事故の防止に努めています。感電事故の未然防止のため、電線付近でのたこ揚げはやめましょう。

また、たこが電線に引っ掛かったら自分で取らず、すぐに最寄りの東北電力へ連絡ください。



【問い合わせ先】東北電力㈱盛岡営業所 (〒020-8521盛岡市紺屋町1-25) 019-653-4967

石神の丘美術館 今月のみどころ！

岩手県立沼宮内高等学校

美術部・写真部・書道部合同展

会期：12月3日(土)～23日(金)

開館時間：午前9時～午後4時 毎週月曜日休館 観覧無料

昨年に引き続き今年も、沼宮内高等学校の美術部、写真部、書道部の生徒の日ごろの活動成果を発表する作品展を行います。この展覧会は学芸員や顧問の先生の指導を受けながら、高校生が作品の展示、広報活動に積極的に参加して作り上げられます。展示されている作品だけでなく、展覧会自体にも生徒たちの奮闘の様子がうかがえる展覧会です。若さあふれるフレッシュな展覧会をこの機会に多くの人にご覧いただきたいと思ひます。

【展覧会が出来上がるまで】

良い展示とはどんな展示だろう？展示について学びます

美術部が中心となりポスターをシルクスクリーンで制作。町内の各施設に掲示をお願いします。いよいよ展示作業。鑑賞する人が見やすいように作品の並べ方、高さ、間隔に気を配ります



写真は昨年の様子です

[次回の展覧会] 平成18年1月7日(土)～29日(日)
岩手町小中学校・高校絵画コンクール作品展

ホール小さな展覧会も楽しいよ！

企画展示室だけでなく、ホールでも楽しい展覧会を開催しています。(12/1～)

○「辞典・事典・字典」展

「国語辞典」「英和辞典」「百科事典」だけが辞書じゃない！面白い辞書や個性的な辞書を集めました。読んでみたくなるような辞書がきっと見つかりますよ。

○「世界で一つだけの雪」展

紙を切って作る、あなただけの雪をホールの中に降らせよう。昨年人気だった展覧会を今年も開催します。

お知らせ

12月から3月は、冬時間での開館となります。ご注意ください。

開館時間：午前9時～午後4時
休館日：毎週月曜日

(月曜日が祝日の場合その翌日)

年末年始は12月29日～
1月3日まで休館となります

このコーナーへのお問い合わせ...
石神の丘美術館 62-1453

【募集人員】 48人

【任期】 平成18年4月～平成19年3月

【応募期限】 12月28日(水)

【内容】 アンケートへの回答やモニター会議への出席など

【その他】 応募資格や応募方法など詳しくは問い合わせください

【応募と問い合わせ先】 東北森林管理局国有林モニター係(〒010-8550秋田市中通5丁目9-16) 018-836-2274 FAX018-836-2931

国立宮古海上技術 学校では生徒募集

国立宮古海上技術学校は、修業年限3年間の船員教育機関です。

【募集人員】 本科生40人

【受験資格】 平成18年4月1日現在の年齢が15歳以上で中学を卒業した人(平成18年3月卒業見込みを含む)など

【受付期間】 推薦入試:平成18年1月6日(金)～23日(月) 一般入試:平成18年1月6日(金)～2月7日(火)

【試験日】 推薦入試:平成18年1月26日(木) 一般入試:平成18年2月12日(日)

【問い合わせ先】 国立宮古海上技術学校教務課(〒027-0024宮古市磯鶏2-5-10) 0193-62-5316 ホームページ <http://www.rnac.ne.jp/~miyakai>

東京の大学などに 進学する県人の寮

岩手県出身者で、東京の大学などに進学する人は、寮費が安い岩手県学生会館が便利です。

【所在地】 東京都豊島区要町2丁目5-5

【募集人員】 男子25人、女子15人程度

【寮費】 月額80,500円(朝夕食付き) 入寮費10万円

【室内】 13.5平方メートル(全室個室)

【室内設備】 机、ベッド、クローゼット、洗面化粧台、冷暖房器ほか

【問い合わせ先】 県学生援護会事務局(〒100-0014東京都千代田区永田町1丁目4-1県東京事務所内) 03-3581-0341

行われます

自衛隊岩手駐屯地 第21回定期演奏会

陸上自衛隊岩手駐屯地では、第21回定期演奏会を開催します。

【日時】 12月18日(日)午後2時開場、午後3時開演

【場所】 盛岡市民文化ホール(マリオス)

【入場料】 無料。入場整理券を発行します

【問い合わせ先】 陸上自衛隊岩手駐屯地司令業務室(滝沢村滝沢字後268-433) 019-688-4311内線367、584

やる気を応援する 就職フェアを開催

盛岡公共職業安定所などでは、新規大卒者や一般求職者などの就職活動支援のため、「やる気応援就職フェア(もりおか就職面接会&いきいき企業出合いの場)」を開催します。

【日時】 平成18年1月19日(木)午後1時～4時

【場所】 ホテルメトロポリタン盛岡ニューウイング4階

【対象】 大学・短大・専修学校などの卒業生または来年卒業見込者、求職中の中途採用希望者(企業は、参加申し込みが必要です。申込期限=12月16日)

【問い合わせ先】 独立行政法人雇用・能力開発機構岩手センター企画部門 019-625-5102または盛岡公共職業安定所求人企画部門 019-624-8905

その他

目指そうゼロ災害 無くそう死亡労災

県内では、今年10月末までに20人が労働災害で亡くなっています。年末年始の繁忙期に災害が多発する傾向にあることから、「岩手県から死亡労働災害をなくそう運動」を平成18年1月31日まで行っています。

各職場では、危険有害要因の把握や改善に努めましょう。

【問い合わせ先】 岩手労働局安全衛生課 019-604-3007

労災保険未加入に 費用徴収制度強化

労働者を1人でも雇っている事業主は、労災保険の加入手続きを行わなければなりません。

11月から、労災保険未加入の事業主に対する費用徴収制度が強化されました。これにより、事業主が労災保険の加入手続きを怠っていた期間中に労災事故が発生した場合、さかのぼって保険料を徴収するほか、労災保険から給付を受けた金額の全額または4割を事業主から徴収することになります。

事業主の皆さんは、忘れずに労災保険に加入しましょう。

【問い合わせ先】 盛岡労働基準監督署 019-621-5115

製造業の事業所を 対象とし工業統計

経済産業省では、製造業を営む事業所を対象とした工業統計調査を12月31日現在で行います。

12月末から来年1月にかけて調査員がお伺いしますので、ご協力をお願いします。

【問い合わせ先】 役場企画商工課統計広報係 内線376

お知らせ

役場62-2111

12月

募集しています

児童館と保育所で 入所児童を募集中

平成18年度の町内保育所(園)と児童館の入所申し込みを受け付けています。

施設名	児童数	電話番号
城山保育園	90	62-2083
沼宮内保育所	60	62-2364
川口保育所	70	65-2131
一方井保育所	45	62-4522
水堀保育所	30	62-8700
南山形へき地保育所	30	62-9449
北山形児童館	30	62-9155
横田児童館	30	62-3460

現在、保育所に入所している児童のいる人が引き続き入所を希望

する場合、小学校就学まで申し込みしていれば手続きは不要(児童館とへき地保育所は除く)です。ただし、源泉徴収票、就労証明書などは提出していただきます。入所の申し込みは1人1施設です。【申し込みと受付期間】各保育所、児童館、住民生活課に備え付けの申込書に記入し、平成18年1月16日(月)までに申し込み【添付書類】申込書以外の提出書類(保育所だけ)は、源泉徴収票 就労証明書 同意書など。これらは後日お知らせしますので、面接日に提出してください【保育料(保護者負担経費)】保育所の場合、前年の所得税、前年度の町民税などの納税額によって決定します。児童館とへき地保育所は月額10,000円程度の予定【保育所入所の基準】次のいずれかの理由で保育できない場合を基準とします。日中、家庭外で仕事をしている 日中、家庭内で家事以外の仕事をしている 母親が妊娠中か産後間もない 病気や負傷により療養中、または心身に障害を有している 同居親族の病人、障害者を常時介護している

【入所決定】 保育所は基準順位の高い児童から、児童館・へき地保育所は年齢の高い児童から決定

【問い合わせ先】 役場住民生活課 児童係 内線214

県内28の道の駅で 「スタンプラリー」

岩手「道の駅」連絡会と国土交通省岩手河川国道事務所では、第2回岩手「道の駅」い〜はと〜ぶスタンプラリーを行っています。

県内28カ所の道の駅を踏破し岩手の特産品をゲットしよう。

【期間】平成18年2月28日(火)まで

【問い合わせ先】 国土交通省岩手河川国道事務所 019-624-3131または各道の駅(道の駅「石神の丘」は 61-1600)

国民の森林づくり あなたの意見を!

東北森林管理局では、国有林の管理・経営に皆さんの意見を取り入れるため、「国有林モニター」を募集しています。

国の森林政策に関心がある人はぜひ応募ください。

ヤング散歩/211回

たぐちみゆき
田口美幸さん(25歳)



パリで買い物を楽しみたい

「以前から福祉の仕事に携わりたいと思っていました」と話す美幸さんは、11月にスタートした知的障害者デイサービス「くれよん」の指導員です。「最初は戸惑うことばかり。やっと個々の性格を理解し対応できるようになりました」と一生懸命です。

休日には、温泉やドライブに出掛け、その土地の名物も堪能。また、最近購入したミキサーでいるんなジュースやふりかけを作る実験!?に夢中です。映画鑑賞が趣味で、「1日最高6本の映画を見たことがあります」と、かなりの映画好きのようです。

「フランスのパリで買い物を楽しみたい」という美幸さんの理想の男性像は「ちょっぴりワイルドで楽しく話ができる優しい人」とか。「明るい性格が私の長所。明るく楽しく、みんなと一緒に成長したい」と語る笑顔は、とてもさわやかです。

プロフィール 平館高卒。10月にNPO法人育心会に就職。知的障害者デイサービス「くれよん」指導員。かに座、血液A型。八幡平市。



岩手町50年の

軌跡

皇太子・同妃殿下が岩手町訪問 町技・ホッケーなど観覧される

昭和五十九年十月、第八回全国育樹祭が十和田八幡平国立公園内で開催され、これに出席するため岩手県入りした皇太子ご夫妻（今上天皇・皇后両陛下）は、育樹祭臨席前日の十四日、岩手町を訪問されました。当日は秋晴れの好天に恵まれ、視察先の町総合グラウンドや役場庁舎、また沿道などで七千人余りの町民が皇太子ご夫妻を熱烈に歓迎しました。

皇太子ご夫妻は、第十五回町民ホッケー大会小学生の部決勝を観戦し、町技として小学生からお年寄りまで広く町民に普及し、全国大会でも輝かしい記録を残している当町のホッケー競技に理解を示されました。また、柴田嗣郎町長の案内で特産品を観覧し、予定より多くの時間をかけ、岩手町でのひとときを過ごされました。

皇室からのご来町は、岩手国体秋季大会ホッケー競技会を観戦された昭和天皇・皇后両陛下以来十四年ぶり。にこやかに手を振り、北山形小と一方井小両校ホッケーチームの選手たちを激励する皇太子ご夫妻の姿に、町民から大きな歓声が沸きました。

岩手朝日テレビ主催「ふるさとCM大賞」の審査会が11月26日に盛岡市で開かれ、岩手町が出品した「いわてまちの休日」が最高賞の大賞に輝きました▶町のCMは、同局で年間365回放送され、東北地域でも20回放送されます。金額に換算すると1億円を超える効果!! 審査会の模様は、12月23日午後2時から同局で放送。CMは1月から放送される予定です。皆さんお楽しみに(ささき)

